

につせい農事にゅーす

(第 4 7 6 回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

今年の夏も昨年に引き続き全国的に気温が高い状況が続いています。静岡県では 7 月 21 日（ほぼ平年並）に梅雨明けとなり、晴れて気温が高い日が続いています。気温が高く降雨が少ないと、害虫の発生時期が早まり、発生量の増加も懸念されます。害虫の発生に注意し、被害が出る前に防除しましょう。また、例年 8 月～9 月は台風が日本周辺を通過して被害をもたらします。台風では、大雨による農作物の浸水や強風によりできる傷からの病原菌の感染など病害の発生が増加が心配されます。台風が通過した後は、病気の発生を抑制するために早めに殺菌剤を散布しましょう。

病虫害防除所の 8 月予報では、稲でごま葉枯病がやや多、かんしょでイモキバガが多、エビガラスズメがやや多、温州みかんで黒点病、かいよう病が多、果樹全般で果樹カメムシ類が多、茶では輪斑病、チャノコカクモンハマキ、クワシロカイガラムシが多、新梢枯死症がやや多、作物全般でハスモンヨトウがやや多の情報が出ています。

8 月の気温が高い時の薬剤散布は、たいへんな重労働です。なるべく朝、夕の気温が低い時に行い、散布後は十分な休憩をとって体を休めてください。

今月も、水稻、みかん、茶の病虫害防除について 8 月に行う作業を紹介します。

令和 8 年 7 月 2 1 日

気象予報 ‘ 2 6 – 8

東海地方 3 か月気象予報

名古屋地方気象台

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。

● 月別の予報

8 月：平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率 50%です。

9 月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率 60%です。

10 月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。

● 向こう 3 か月の気温、降水量の各段階の確率 (%)

予報の 区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3 か月	20%	40%	40%	30%	30%	40%
8 月	10%	40%	50%	30%	40%	30%
9 月	30%	40%	30%	30%	30%	40%
10 月	20%	40%	40%	30%	40%	30%

病害虫発生予察情報(8月予報)

令和 8 年 7 月 30 日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (8月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
稲	葉いもち・穂いもち	発生量:少 (葉いもち発病株率 2.3%) (穂いもち発病株率 0.04%)	7月中下旬葉いもち発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (一) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	紋枯病	発生量:やや少 (発病株率 6.7%)	7月中下旬発生量 :少(発生なし) (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	ごま葉枯病	発生量:やや多 (発病株率 16.0%)	7月中下旬発生量 :並 (±) 気象予報 :気 温 :高い (一) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	稲こうじ病	発生量:やや少 (発病株率 0.3%)	昨年9月発生量 :並(発生なし) (±) 気象予報 :気 温 :高い (一) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	トビイロウンカ	発生量:並 (寄生虫数:0.03頭/株)	7月中下旬発生量 :並(発生なし) (±) 7月予察灯誘殺数 :並(誘殺なし) (±) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	斑点米カメムシ類	発生量:やや少	7月中下旬発生量 :少 (一) 予察灯誘殺数 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
かんしょ	ナカジロシタバ	発生量:やや少 (寄生虫数0.1頭/㎡)	7月中旬発生量 :少(発生なし) (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	イモキバガ (イモコガ)	発生量:多 (巻葉数6.0葉/㎡)	7月中旬発生量 :やや多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
	エビガラスズメ	発生量:やや少 (寄生虫数0.05頭/㎡)	7月中旬発生量 :少(発生なし) (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並 (±)
温州 みかん	黒点病	発生量:多 (発病度 1.9)	7月中旬発生量 :多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :ほぼ平年並(±)
	かいよう病	発生量:多 (発病度(果) 0.1)	7月中旬発生量 :多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :ほぼ平年並(±)
	ミカンハダニ	発生量:少 (寄生葉率 4.8%)	7月中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :ほぼ平年並(±)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量:やや少 (寄生果率0.1%)	7月中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 :ほぼ平年並(±)
中晩柑類	かいよう病	発生量:並 (発病度(果) 0.7)	7月中旬発生量 :並 (±) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :ほぼ平年並(±)

作物名	病害虫名	予報 (8月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
なし	ハダニ類	発生量: やや少	7月中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	ナシヒメシンクイ	発生量: やや少	7月中旬発生量 : 少(発生なし)(－) フェロモントラップ誘殺数 : 並 (±) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
かき	フジコナ カイガラムシ	発生量: やや少 (寄生果率0.8%)	7月中旬発生量 : 少(発生なし)(－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	ハマキムシ類	発生量: やや少	7月中旬発生量 : 少(発生なし)(－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
果樹全般	果樹カメムシ類	発生量(多) 特に東部は要注意	越 冬 量 : 少 (－) 予察灯誘殺数 : 少 (－) フェロモントラップ誘殺数 : 少 (－) ヒノキ着果量: 多 (＋) ヒノキ寄生数: 多 (＋) ヒノキ球果吸汁痕数: 並～少(±～－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
茶	炭疽病	発生量: 少 (病葉数 17.1葉/1.25㎡)	7月上中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (±) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	輪斑病	発生量(多) (病葉数 5.7葉/1.25㎡)	7月上中旬発生量 : 多 (＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋)
	新梢枯死症	発生量(やや多) (発症枝数 5.2枝/1.25㎡)	7月上中旬発生量 : 並 (±) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	カンザワハダニ	発生量: やや少 (寄生葉率4.4%)	7月中下旬発生量 : 少 (＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	チャハマキ	発生量: やや少 (寄生虫数0.4頭/1.25㎡) 発生時期: 並～早い	7月上中旬発生量 : 少 (－) 第1世代成虫発生量: 並 (±) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	チャノコカクモン ハマキ	発生量(多) (寄生虫数0.4頭/1.25㎡) 発生時期: 並～早い	7月上中旬発生量 : 多 (＋) 第1世代成虫発生量: 並～多 (＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	チャノホソガ	発生量: 少 (巻葉数0.9葉/1.25㎡)	7月上中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (－) 降水量 : ほぼ平年並(±)

作物名	病害虫名	予報 (8月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
茶	チャノキイロ アザミウマ	発生量: やや少 (叩き落とし虫数11.9頭/4か所)	7月上中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	発生量: 少 (叩き落とし虫数0.9頭/4か所)	7月上中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (±) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	ヨモギエダシャク	発生量: 並 (叩き落とし虫数0.1頭/4か所)	7月上中旬発生量 : 並 (±) 第1世代成虫誘殺数: やや少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	クワシロ カイガラムシ	発生量 (多) (寄生株率4.4%) 発生時期: 早い	7月上中旬発生量 : 多 (＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (±) 降水量 : ほぼ平年並(±)
きく (施設)	黒斑病・褐斑病	発生量: やや少 (発病株率: 0.4%)	7月中旬発生量 : 少(発生なし)(－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	アザミウマ類	発生量: やや少 (発病株率: 14.2%)	7月中旬発生量 : 少 (－) ただし、一部ほ場で多 (＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋)
	ハダニ類	発生量: 少 (寄生虫数: 4.1頭/10葉)	7月中旬発生量 : 少 (－) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋)
作物全般	ハスモンヨトウ	発生量 (やや多)	フェロモントラップ誘殺数: 並～やや多(±～＋) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)
	オオタバコガ	発生量: 並	フェロモントラップ誘殺数: 少～並 (－～±) 気象予報 : 気 温 : 高い (＋) 降水量 : ほぼ平年並(±)

8月の防除作業 水稻、みかん、茶

<水 稲>

今年は平年並の7月20日頃に梅雨が明け、それ以降晴れて気温の高い日々が続いている。この時期、問題となる病害は、穂いもち、紋枯病、ごま葉枯病などである。穂いもちの伝染源は葉いもちのため、葉いもちの発生が多ければ、穂いもちも発生しやすいが、今年は葉いもちの発生が少ないため穂いもちの発生も少ないと思われる。中山間地等で葉いもちが発生した水田では穂ばらみ期～穂そろい期（8月上中旬）に予防散布を行う（**ブラシフロアブル**）。また7月下旬から8月の幼穂形成期には紋枯病が発生する。前年に紋枯病の発生が見られた水田では、伝染源となる菌核が残っているので、早めに薬剤散布（**モンカットフロアブル**や**バリダシン液剤5**等）を行う。

害虫では、例年8月にセジロウンカの発生が増加する。また8月後半はトビイロウンカも飛来時期にあたる。今年は7月半ばの段階で、セジロ、トビイロの誘蛾灯への飛来は確認されていない。今後、高温、少雨の気候が続くとトビイロウンカの増殖が心配される。4年前のような被害を出さないために、本田での防除を実施する。8月は出穂期にあたり、斑点米カメムシ類が本田に侵入してくるので、ウンカ類との同時防除を行う（**アルバリン粒剤**、**エクシードフロアブル**、**ブラシントレバリダ水和剤**等）。

また、この時期はコブノメイガやイネツトムシの幼虫による被害も発生する。例年発生する圃場ではカメムシとの同時防除を行う（**ディアナSC**、**ロムダンゾル**など）。



紋枯病



トビイロウンカ

<みかん>

黒点病は、樹幹内部の枯枝や園の内外に放置された剪定枝が伝染源となるので、枯枝は適宜除去し、園外へ持ち出して処分する。薬剤散布は25～30日間隔、または降雨量250～300mmを目安として行う（**ペンコゼブ水和剤**、**ジマンダイセン水和剤**など）。台風がやってくるとかいよう病の発生が心配される。そのような時は、**バリダシン液剤5**を通過後早めに散布する。

害虫では、チャノキイロアザミウマが果頂部を中心に加害するようになる。病虫害防除所の発表する成虫発生時期の予想情報を参考に3～4週間間隔で薬剤散布を行う（**コルト顆粒水和剤**、**キラップフロアブル**、**アルバリン顆粒水溶剤**など）。また8月中～下旬はヤノネカイガラムシをはじめ、イセリアカイガラムシ、コナカイガラムシ等カイガラムシ類の幼虫発生期にあたる。6月に防除をしなかった圃場ではこの時期に防除する（**アルバリン顆粒水溶剤**、**コルト顆粒水和剤**など）



黒点病



チャノキイロアザミウマ

近年、発生が増加して果樹に被害をもたらす果樹カメムシ類（チャハカメシ、ツアカメシ等）は今年も発生が多い予想。8月後半～9月になると、新成虫が果樹園に飛来してくると思われる。圃場で本虫を確認したら直ちに薬剤散布を行う。

< 茶 >

8月前半はチャハマキ、チャノコカクモンハマキの成虫の発生が見られ、ふ化してくる幼虫に対する防除時期となる。この時期は、成虫の発生がばらついており、予察灯やフェロモントラップの誘殺数に基づいて防除時期を決めるのが難しい。幼虫の発生初期であれば**エクシレルSE**や**グレーシア乳剤**のような残効性のある薬剤を、また成長した幼虫が多い場合は、残効性は短いが、齢期の進んだ幼虫にも効果のある**アフーム乳剤**が有効である。

8月後半になると、秋芽の生長が始まるので、新芽害虫のチャノホソガ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ等が防除対象となる。**ハチハチ乳剤**または**ガンバ水和剤**がウンカ、スリップスに有効である。また、この時期には新芽にカンザワハダニやチャノホコリダニが発生することがある。ガンバ水和剤は、チャノホコリダニには効果があるが、カンザワハダニが発生しているようであれば、**アグリメック**等のハダニにも効果がある薬剤を用いる。

炭疽病やもち病は、新芽萌芽～開葉期に感染する。炭疽病の感染には、10時間程度の連続した降雨が必要である。もち病には、100%近い高湿度条件が必要である。8月後半の秋芽生育期に台風や熱帯低気圧の影響で雨が数日続くようなことがあれば、事前には**ダコニール1000**や**フロンサイドSC**等の予防効果の高い薬剤を、降雨後では**スコア顆粒水和剤**や**オンリーワンフロアブル**等の治療効果の高い薬剤で防除を行う。



チャノコカク
モンハマキ



チャノミドリ
ヒメヨコバイ



炭疽病

もち病

今月の防除(令和8年8月)

作物	時期	病虫害	使用薬剤	使用法	使用基準	備 考
イネ	上～下	穂いもち・紋枯病 ごま葉枯病 穂枯れ ウンカ類・ ヨコバイ カメムシ類	・ブラシントレバリダ 水和剤 ・モンカットフロアブル又 はバリダシン液剤5と アルバリン顆粒水溶 剤又は エクシードフロ アブル を混用	500倍 1,000倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	14日-2 14日-4 14日-5 7日-3 7日-3	ブラシンはもみ枯細菌病や内穎 褐変病にも有効である。 使用適期は出穂前10日頃
		ニカメイチュウ・ コブノメイガ・ イネツトムシ	パダンSG水溶剤 又は スミチオン乳剤*	1,500倍 1,000倍	21日-6 21日-2	*コブノメイガに適用ないが カメムシ類に適用あり
		もみ枯細菌病 内穎褐変病	ブラシンフロアブル	1,000倍	7日-2	ブラシン粉剤DL(4kg, 7日-2) も可。
イチゴ	上～下	炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	500倍	仮植栽培期 -6	ジマンダイセン水和剤も炭疽病に有効。 炭疽病は雨よけ栽培と薬剤散布を 徹底する。
		うどんこ病 ハダニ類	モレスタン水和剤 マイトコーネフロアブル	3,000倍 1,000倍	前日-2 前日-2	アフエットフロアブルもうどんこ病 に有効。
トマト	上～下	青枯病 黄化葉巻病(コナ ジラミ防除)	バスアミド微粒剤 ベストガード粒剤 又は アルバリン顆粒水溶剤	30kg/10a 1～2/株 100倍	定植21日前-1 定植時-1 鉢上時又は 定植時	クロールピクリンも可。 ベストガードは植穴処理土壌混和。 モレスタン水和剤1500倍も可。 セル育苗箱当り0.5ℓ灌注。
		ハモグリバエ類	プレバゾンフロアブル5 又は ダントツ水溶剤	1,000倍 2,000倍	前日-3 前日-3	アクタラ粒剤5(1g/株)も可。 スピノエース顆粒水和剤 (5000倍)も有効。
チャ	上～下	ハマキムシ類 ウンカ・スリップス ヨモギエダシャク	グレーシア乳剤 又は エクシレルSE	2,000倍 2,000倍	14日-1 7日-1	フェニックスフロアブル、チューン アップ顆粒水和剤もハマキムシ類、 シャクトリに有効。
		ウンカ・スリップス・	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日-1	チャノホソガの発生が多いときは マッチ乳剤が有効。
	秋芽 萌芽期	カンザワハダニ チャノホコリダニ 炭疽病・もち病・ 褐色円星病	アグリメック インダーフロアブル 又は スコア顆粒水和剤 又は ダコニール1000 又は フロンサイドSC	1,000倍 5,000倍 2,000倍 700-1,000倍 2,000倍	7日-1 7日-2 7日-2 10日-1 14日-1	褐色円星病は葉がやや硬化 した時にも感染するので、多発 園では2回防除する。ダコニール フロンサイドは新梢枯死症にも 有効である。
温州 みかん	中～下	チャノキイロアザミウマ およびカイガラムシ類 黒点病	アルバリン顆粒水溶剤 又は コルト顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 又はベンコゼブ水和剤	2,000倍 3,000倍 400-800倍 400-800倍	前日-3 前日-3 30日-4 30日-4	ハチハチフロアブル2000倍も チャノキイロアザミウマに有効。 台風の襲来でかいよう病の発 生が心配される時はバリダシン 液剤5の500倍を散布する。
中晩柑	中～下	かいよう病 黒点病 カイガラムシ類	バリダシン液剤5 ジマンダイセン水和剤 又はベンコゼブ水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	500倍 600-800倍 600-800倍 2,000倍	7日-4 90日-4 90日-4 14日-3	

* 使用前には農薬のラベルをよく読み、登録内容に沿って散布してください。